学道一如

発行
小樽双葉高校
新聞部
2026年10月15日
第37号

中村美月さん ハワイ短期留学
かけがえのない経験、挑戦する勇気得た

中村美月さん（2-1）は8月上旬から5週間、ハワイのホノルルにあるパシフィック・ブディスト・アカデミー（ＰＢＡ）という高校にホームステイしながら短期留学し、貴重な体験をした。







写真右：ホストファミリー
写真中：ワイキキビーチで遊ぶ
写真左：ビーチの風景

このプログラムには全国の龍谷総合学園に加盟する高校から11名の生徒が参加している。本校と龍谷総合学園の双方から奨学金が支給されている。

留学目指して本校へ

中村さんは本校の留学制度を中学生のときに知り、ずっと留学を目指してきた。英語の力を総合的に上げたいと願っていた。

ビザ取得に苦労

だが、トランプ政権下、中村さんもビザの取得に大変な苦労をした。昨年度は留学の時期が遅れて、希望者が断念するということも起きていた。今年もビザ取得のための面接の予約がなかなか取れず、最後の最後になんとか取れたという。



ショッピングセンターのステージ

アジア系の陽気なファミリー

８月７日～９月12日までアジア系の家にホームステイしながら、ＰＢＡの高校に通った。中国系のユさんは訛りの強い英語を話した。奥さんはマレーシア出身で娘３人と犬のいる陽気な家庭だった。楽しくユーモアのセンスがあった。ここに東京から来ている高校生と中村さんの２人がお世話になった。食事はアジア＆ハワイ系のものが出され、スパムをよく食べた。

写真右端のケイリー（16歳）と親しくなり、よく3人でショッピングモールに遊びに出かけた。物価は高く、日本の２・５倍ほどだった。アサイーボールが美味しかったが二千円ほどした。





写真上：ハワイの風景（植物）
写真右：テニス競技場から見た街並み

刺激的な授業

高校の授業は詩、日本語、ロックバンド、合唱などの授業を受けた。

詩の授業では英語で詩を作る課題が出て、提出に追われた。

日本語の授業では日本語を教えるなど現地の生徒との交流を楽しめた。

ロックバンドの授業ではギターを弾き、合奏もした。クラスメイトの演奏はかっこよく、先生の歌声も素敵だった。

合唱の授業では有名な英語の曲shallowを一緒に歌った。

また、ＬＨＲではチョコフォンデュを作る楽しい時間もあった。さらに2泊3日のスクールキャンプでは浜辺でたき火をしたり、カラオケを楽しんだ。このとき、自ら現地の人に話しかけ交流できたという。

滞在中、ハリケーンで長期間停電になり、助け合ったことも思い出となった。

自分に自信もてた
視野広げ、挑戦する力得た

この留学経験から得たことは主体的に考え、行動する力、何事も経験だと思い挑戦する力がついたことだという。

実はホームシックになった時期もあったという。だが、多様な人と交流する中で楽しいと思えるようになり、気づいたら克服できていた。この経験は大学受験のときに思い出して前に進む原動力になると信じている。

新聞石狩・後志支部大会
全道大会リハーサル
新聞制作の理念と実践学ぶ



9月13日、札幌市教育文化会館で高文連石狩・後志支部新聞研究大会が開催され、百名余りの生徒と顧問が集った。午前は全道大会に備えて、各分科会提言者の発表と質疑、午後は菅野昭浩先生を講師に新聞制作の理念と技術を学んだ。（写真）

落合優翔くんは「全道大会の各提言を聞くことができ、視野を広げられた。特に小笠原昴くん（開成）の「ＩＣＴツールの利用、ＡＩとの向き合い方」は今後に役立つ内容だった。菅野先生の講演からはあらためて新聞の構成、レイアウトなど基本の重要性を認識できた」と言う。

木藤心音さんは「菅野先生の講演を通し、何気なく読んでいた新聞の工夫がわかった。小樽桜陽の石森先生は基礎の大切さを訴えていた」と語る。

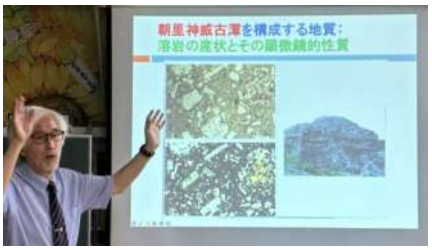
菊地羽菜さんは「全道のリハーサルで他校から沢山の質問が出てすごいと思った。新聞技術講習ではレイアウトについて質問形式で学ぶことができてわかりやすかった」と言う。三者、今後の活動に役立てるつもりだ。

朝里地区の地形を学び、災害に備える

松田義章先生講師にコミュニティスクール

９月14日、朝里中学校コミュニティスクールが松田義章先生（地質学博士、北海道教育大学札幌校・小樽商科大学　非常勤講師）と大沼雅弘先生（北海道総合地質学研究センター会員）を招き、地域防災講話を開催した。地域住民や学校関係者ら40名余りが集い、科学的根拠に基づき、防災意識を高めた。

朝里は地盤は強固だが　津波には警戒を



松田先生は小樽・朝里の地質や大地の歴史について解説した。小樽特有の急な坂道は大地の急激な隆起や陸上火山の溶岩によって形成された。その中で朝里川扇状地は大きな礫（小石）や砂利が詰まった強固な地盤で、比較的揺れには強いという。

津波は浅い場所にくると波が高くなる性質があるという。参加者から「朝里の海岸ではどうなのか」と質問が寄せられた。これに松田先生は「日本海側の地震や津波については歴史的なデータが少なく、ほとんどわかっていない」と答えた。その上で「地形的に朝里川河口のようなV字型の湾になっている場所は、津波の高さが３倍から５倍に増幅されると言われており、その影響が上流まで及ぶ可能性がある」と語った。河口周辺や沿岸部での速やかな避難の重要性が示された。

地域の課題具体化　高齢化、避難経路

大沼先生は朝里地区の現状と防災上の課題が提示された。この地区は高齢化が進み、独居者も増えている。特に平日昼間は働く世代や子どもたちが不在となり、高齢者や要支援者のサポートが課題である。また、災害時にはＪＲの踏切が下がりっぱなしになり、避難経路が遮断されるリスクがあり、悪天候時に屋外の防災行政無線が家庭に届きにくいことも指摘された。

中学校で合同防災訓練

こうした課題を受け、コミュニティスクールでは10月25日に朝里中学校体育館で生徒と地域住民約二百名が参加する合同防災訓練を実施する。そこで中学校が避難所となったときの運営方法について学ぶという。

フタバのごきげんよう

第１回　玉川めぐみ先生

新企画「フタバのごきげんよう」がスタートしました。この企画は、サイコロの目ごとに質問をあらかじめ決めておき、先生がサイコロを振って出た目の質問をする企画です。記念すべき第一回目は玉川めぐみ先生です。



サイコロを持つ玉川めぐみ先生

▼一回目の質問

- ● 教師になった理由
- ● 最近ハマっているもの
- ● 玉川先生と結婚した理由
- ● 好きなアーティスト
- ● 苦手だった教科
- ● 学生時代なりたかった職業
- ● 先生の出した目
- ● 玉川祐介先生と結婚した理由―ある年の席替えで隣になったから

▼二回目の質問

- ● 行ってみたい国
- ● 好きな食べ物と嫌いな食べ物
- ● 教師人生で一番感動したこと
- ● 教師人生で一番大変だったこと
- ● 小樽の好きなところはどこ
- ● この学校に勤めて何年目？
- ● 先生の出した目
- ● 小樽の好きなところは―海

▼三回目の質問

- ● 学生時代の部活動
- ● 出身地
- ● 生まれ変わったらなりたいもの
- ● 好きな色
- ● 学校で一番好きな場所
- ● 一番落ち着く時間
- ● 先生の出した目
- ● 一番落ち着く時間―午後十時、一日のタスクが終わりゆっくりできるから。

▼二回目の質問

本校も地域住民と防災訓練

ドリプロ・医療福祉が活躍

10月7日、本校で地域の連合町会（浜小樽・入船）と合同の防災訓練が実施された。本校は避難所に指定されており、地域の方に実際に学校に足を運んでもらい、災害時のスムーズな避難や安心感に繋げようという目的がある。



非常食を一緒に試食



右の箱は防災用簡易トイレ。本校にはこのような防災用備蓄品があることを紹介し、地域の方にも見てもらった。

当日は地震発生を想定し、全員でグランドに避難した。その後、カフェテリアでドリプロの医療・福祉専攻の２年生13名が防災の基本や本校の備蓄品について地域の方に説明した。最後に、テーブルごとに非常食を一緒に試食しながら、普段から必要な備えについて話し合った。

ドリプロの授業ではその１週間前に消防員の方から災害の備えについて説明を受けていた。その際、避難所となっている本校では、非常事態に高校生の協力が必要であることを認識したという。

全道高等学校新聞コンクール《手書き・ワープロ部門》優秀賞を受賞



10月９日、全道新聞研究大会の最終日、新聞コンクールの結果が発表され、本校は手書き・ワープロ部門で優秀賞を受賞した。

発行回数と内容の充実度を評価していただいた。「双葉歴史探偵事務所」「小樽再発見」などの連載は注目されている。写真の出典の明記、レイアウトの工夫が今後の課題である。皆様に取材へのご協力をこれからもお願いしたい。（写真は表彰式）